

## 2019年度エコツアー in 黒部溪谷・黒部川扇状地 報告

吉見 稔里 (よしみ みのり/インターン生)

11月8、9日に富山県で本年度のエコツアーが開催された。参加者は会員の方々、スタッフなど13名であり、地元会員の上田勝朗さん、西井淳さん、及び廣瀬淳さんには大変お世話になった。

一日目の午前中に黒部宇奈月温泉駅に集合し、黒部溪谷パノラマ展望ツアーに参加するべく、宇奈月温泉駅へと向かった。このツアーはトロッコ電車に乗り黒部溪谷を巡る、というものだ。トロッコ電車には窓がなく、側面が全て開いている車両であったため、かなり寒かったものの、秋の紅葉と黒部川の素晴らしい景色をしっかりと堪能することができた。また、ところどころにダムや発電所がみられた。トロッコに90分ほど乗り、樺平という駅まで来た後はガイドの案内に従い、普通は入ることのできないトンネル内へと専用の凸型機関車で向かった。そしてトンネル内にある豎坑エレベーターで地上までの約200mを約2分で昇り、地上に出ると、国の特別天然記念物(天然保護区域)および特別名称に指定されている奥鐘山が見えた。そこからさらに、急な山道を徒歩で登っていくとツアーの目的地であるパノラマ展望台に到着した。かなり急な山道で手すりやロープを伝わりながらのスリルに富んだ坂道だったが、最高齢の加藤顧問も頑張り無事皆到着。展望台からは後立連峰や毛勝三山など遠くの山々迄見え、圧巻の景色であった。説明によると、パノラマ展望台には送電線があり、黒部第三発電所で作った電気を送電。そして山の上を通っていた送電線は黒部川第四発電所と新黒部川第三発電所で作った電気を関西方面に送電しているとのことだった。

パノラマ展望台見学後は、再び豎坑エレベ-

ーターでトンネル内に降り、樺平駅方面へと専用機関車で向かい、樺平駅では各自自由に散策した。周辺には黒部川本流に架かる奥鐘橋や人喰岩などがあった。そして再び宇奈月温泉駅へとトロッコ電車に戻ったが、かなり冷たい風が吹いていたため、帰りは窓のある車両に変更した。そして夕食兼懇親会では参加者同士、昔話も含めて親交を深めた。

二日目は最初に入善町が一望できる舟見城址へ。その後、小水力発電を農業用水で行っている浦山新発電所を見学した。この発電所は入善土地改良区が管理する農業用水路から水を引き入れて発電を行っている。作られた電気は北陸電力に売電しており、売電収益は農道等の土地改良施設の維持管理費に充て、負担の軽減を図っているとのことだった。発電所の周りのはのかな田んぼが広がっており、発電に使用する農業用水路の周りには桜の木が植えられていた。農業と共存するこじんまりとした浦山新発電所の姿は、新しい発電所の在り方を私に教えてくれた。

次に入善浄化センターを見学。ここは本ツアーの地元主催者上田さんが管理運営している。風力発電で作られた電気をを用いて運営しており、余った電力は北陸電力に売っているそうだ。また本施設はオキシデーションディッチ法



という微生物を用いて下水を浄化する方法を用いて処理をし、最終的に出てきた汚泥を固めたものはセメントや肥料に活用している。解説してくださっている机の上にはそれぞれの過程における水がビーカーに入って展示されており、一目でわかるほど、水の透明度が異なっていた。施設内にはゴルフ場があり、我々が施設に伺った時にはちょうど、地元の方々がゴルフ大会を開催していらした。施設を後にし、次の目的地へと向かう時に、風力発電機を遠目から眺めることができた。

そして最後に、黒部市民の生活排水等を浄化するために造られた下水道施設である黒部浄化センターを見学した。施設内で汚泥やコーヒー粕を用いて発電し、その電力を施設の運用の一部に充てることで電気代の50~80%を削減している。そして、本施設は市民に対して水循環の大切さをアピールする役割も担っており、施設内に誰でも利用が可能な足湯「ばいお〜ゆ」を設置したり、下水を再生処理し

た水を利用して作られたアクアパークの整備などを行っている。見学時には発電に使用しているコーヒー粕、そしてコーヒー粕と汚泥が混ざったものの匂いを実際に嗅がせていただいた。参加者の皆さんも実際に嗅がれて、コーヒー粕と汚泥の混ざったものは、コーヒー粕が混ざることによって汚泥の臭いがあまりしない、等の感想を持ったようだ。また、施設内にある足湯「ばいお〜ゆ」も我々が訪問時に市民の方が使っており、市民に近い施設であることを感じた。黒部浄化センターや上記の入善浄化センター等の施設が住民に近いことで、自然に環境について考える機会が増えるのかもしれない。

黒部浄化センター訪問後は魚の駅「<sup>いくじ</sup>生地」にて、富山県の特産物である海鮮を使った海鮮丼をいただいた。海鮮物は非常に新鮮でおいしく、ツアー最後の食事を全員で楽しんだ。その後、集合写真を撮り、新幹線の駅へと向かい、黒部宇奈月温泉駅で解散となった。

